

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報 前兆終息待ち

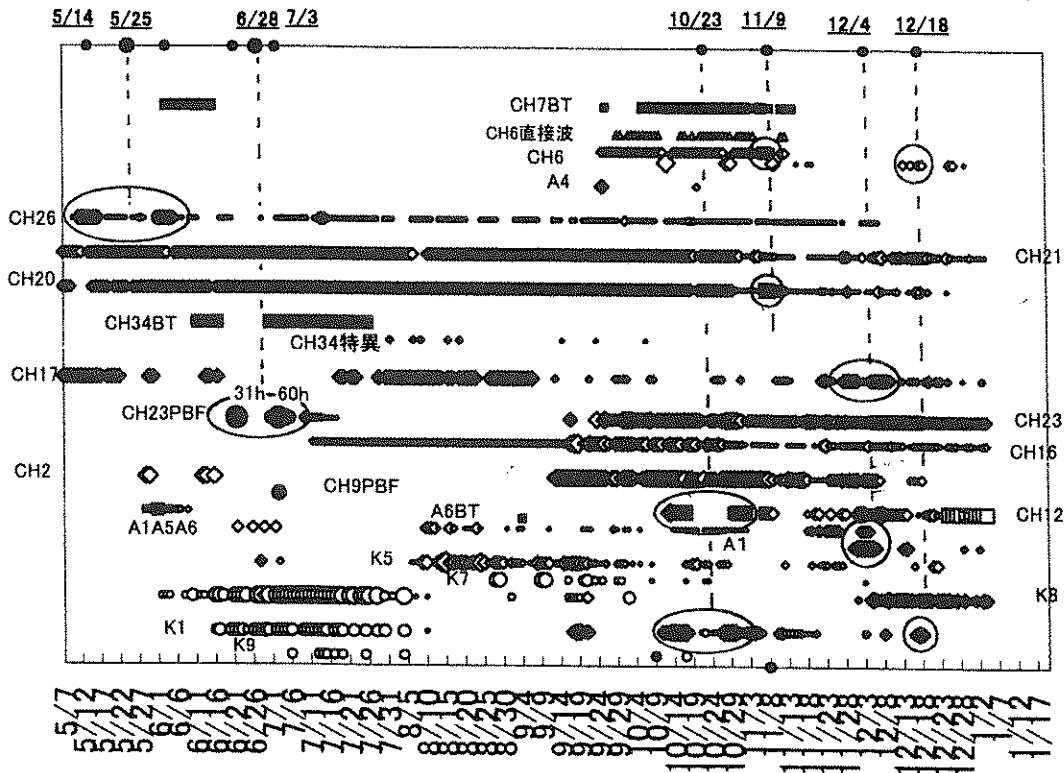


図-1) No.1778 第4期前兆群認識の前兆出現状況図

2008年7月初旬より観測歴上最長継続している特殊前兆であるNo.1778前兆の続報と現況報告です。

2011年05月の極大から第4期前兆群に突入したと認識される前兆の現在までの出現状況は上図-1) のとおりです。

極大認識される箇所の該当前兆変動を○で囲んであります。複数の極大認識ができますが、次々と極大認識が出現しているため、前兆終息が認識できません。本日 1/4現在も前兆が継続出現していることから、現在の第4期前兆群が最終前兆群であったとしても、1月10日以前に対応地震が発生する可能性は否定されず。

第4期前兆群（現在）の前兆形態は判りづらく、初現～極大、極大～終息の関係も良く認識できません。1月10日以前に発生の可能性が考えられないことから、現在までに認識が間違っていることは確かな様です。最終的には前兆が殆ど終息しないと発生は考えにくいから、前兆の終息変化を日々監視している状況です。

例えば、12月に入ってから極大認識、12/4と12/18について上図で見ますと、

(K5) 11/12初現～12/04 極大認識の場合→1/14± (Tpp=10日)

(K8) 12/4 初現～12/18 極大認識の場合→1/13± (Tpp= 6日)

と云う関係の可能性も考えられなくはありません。

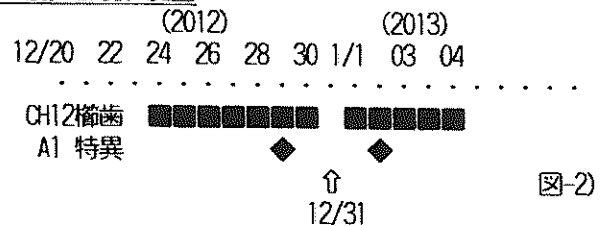


図-2)

また、年末 12/24から突然出現しだしたCH12の歯齒変動も常用と考えます。12/30 未明に終息傾向となり、12/31 は一日静穏と報告致しましたが、1/1 未明より再び歯齒変動は再出現し上のとおり継続出現しています。12/31 一日のみ終息した理由は不明ですが、秋田観測点のA1に上図-2) のとおり、12/29 と1/2 に特異が出現しています。中心は12/31 であることから、お碗型極大(12/31) の可能性も考えられなくはありません。仮に 12/24初現～12/31 極大と仮定認識した場合=1/13± が計算できます。

前兆終息が確認できないと発生日推定計算ができませんが、少なくとも何日までは発生の可能性は考えられないと云う続報を続けます。現在幾つかの不確かな関係からは、1/13±と云う時期も示唆されますが、仮に正しい場合は 12/18極大に対する前兆終息が 1/7±と計算されますので、これが確認された場合は、続報で報告させていただきます。

(※CH12はまもなく数日内には完全静穏となる可能性有)